



逆瀬川 あゆみだより

NO.226 2026.5
社会福祉法人
聖隷福祉事業団
逆瀬川あゆみ保育園
宝塚市逆瀬川 2-2-8
TEL0797-77-0415

市内の街路樹では、ハナミズキの花が満開を迎え、気持ちの良い風景を感じる今日この頃です。。私事ですが、先日100均で買い物をしていました。ご高齢の方がセルフレジの使い方がわからず、そばにいた若者に声をかけていました。少し、後ろにいた私は、「どうするのだろう・・・」と見守っていると、その若者は、使い方を知らせ「何度聞いてもわからんくてな・・・」と呟いた事に対して、「わからなかったら、また聞いたらいいですよ」とさらっと伝えていました。なんだかほっこりと優しい空気に包まれたような気持ちになりました。日常の何気ない小さな出来事ですが、高齢者や子どもにも優しい未来だといいなぁと感じました。

園では、今年度も食育に力をいれていこうと思っています。乳幼児期の食経験は、その後の食の土台になると言われています。乳幼児期は、心身の発達も著しい時ですが、口の動き、食べる力、噛む力、飲み込む力も、急激に完成するものではありません。様々な要素が、少しずつ育っていくので、毎日の積み重ねが大切なのではないかと思っています。全部食べてくれたら、作り手としては、嬉しいですが、「食べられたか」「食べられなかった」だけで子どもを捉えないで欲しいと思います。私も週末、孫達と夕食をとることがよくあります。なんでも食べるというタイプではないため、私なりにあれこれと考えながら、「食べてみよう」と思えるきっかけの一日になったらいいな・・・と思いつつ、細かく野菜を切って、つくねに混ぜてみたり、我が子ではしなかった工夫を今、している感じですが。

でも、例えば、野菜の苦手な子どもが、その野菜を食べられなかったとしても、お皿に乗った野菜をじっと見ていたかも知れません。友だちが食べる様子を、興味深そうに覗いていたかも知れません。「みどりだね・・・」「さわってみる」等その子なりの興味を持っているなど、小さな変化を前向きに捉えたいと感じます。その次に繋がることを信じて、子どもと一緒に、できることにチャレンジしたり、大人も面白がって、楽しんでいる姿が子どもの心に残っていくなど、それも食育なのではないでしょうか。

何事もそうですが、一人ひとり、みな違います。その子なりの「やってみよう」のタイミングがきっとあると信じています。もしかしたら、大人のその心の余裕が必要なのかも知れませんね。

そして、懇談会でもお伝えしましたが、子どもの成長は、あっという間です。数年前を思い返して見て下さい！！きっと、今の子どもの成長を感じることができると思います。大変だと感じることも多々あると思いますが、最高に可愛いこの時期の子育てと一緒に、楽しみましょう。

辻田 紀子



イースター

6日(月)新しいクラスになって、うさぎぐみ・ひつじぐみは、イースターの卵探しを楽しみました。

ひつじ組は、先月から礼拝を守っています。イースターはイエスさまが復活されたことを喜びの日、というお話もしっかり聞くことができました。神様が復活された喜びを少しでも子ども達が感じてくれているといいな、と思います。

ゴールデンウィークに入りました。お仕事が平日お休みで保育園をお休みされる方は早めにコドモンにてご連絡ください。(食数のことがありますのでお願いします)

(登降園時のお荷物準備について)

朝、登園の際、お子さんと一緒にお荷物の準備をした後に、お子さんの保育室入室をお願いします。お迎え時には、まずお子さんを迎えていただき、その後一緒にお帰りのお荷物の準備をしていただきたいと思います。子ども達は誰よりもお母さんやお父さんのお迎えを待っています。まず「ただいま～」と抱きしめてあげてくださいね。

4月18(土)懇談会に、たくさんのご参加ありがとうございました。

懇談会は、園からのお知らせ等をお伝えする場でもありますが、保護者の方同士や保育者と繋がり、思いを共有したり、交流したりする機会になればという思いをもって行っています。保護者の方々が楽しそうにお話をされている様子やゲームで盛り上がっている姿もありました。今年度も保護者の方々と一緒に、子どもたちが生き生きと生活できる場所を作っていきたいと思っています。

また、今年度は子ども達の足の成長や靴の選び方についての講座も行いました。すくすくと大きくなる子ども達の大切な「足」について、これからも大人がしっかり考えてあげたいですね。今年度も、どうぞよろしくお願ひいたします。



お誕生日おめでとう



4名のおともだち
すくすくおおきなあれ♪

口に絶えない賛美



「どのようなときも、わたしは主をたたえ／わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。」

(詩編34：2)

宝塚栄光教会牧師 岩間 洋

私たちは、楽しいとき、嬉しいときによく鼻歌を歌いますね。どんな歌を歌いますか。歌謡曲、唱歌、ポップス、フォークソング…様々な歌があります。しかし、イスラエルの王となったダビデは、最もつらいとき、厳しい状況の中で上掲の言葉を語りました。先代の王サウルに命を狙われ、逃げている最中です。しかも、宿敵ペリシテ人の陣営にしか逃げ場がありません。絶体絶命です。そのような切羽詰まった状況で、主をたたえる賛美を歌ったのです。必ず危機から救い出してくださる真実な主に信頼していたからです。私たちも、楽しいとき、嬉しいときだけではなく、どのようなときも主を賛美したいと思います。口に賛美が絶えないような生き方を送りたいと思います。